
東方隠戦録

鬼畜な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方隠戦録

【Nコード】

N0472Y

【作者名】

鬼畜な人

【あらすじ】

なんか神にBADENDになったから
むしゃくしゃして
転生させたかったと言われて
転生させられた人の物語

第一話 プロローグ・・・テンプレ（前書き）

駄文なので

見たくない方はブラウザバックしてください

第一話 プロロー……テンプレ

俺、加藤神事

は、とつくに死んでいた

以下回想

俺は、親が何故かビルを建てる！とか意味不明な事を言っ
て建て始めたビルを
見に来ている

「宝くじで20億当たったって言ってもこんなビルたてるかねえ？」
そのとき何故か子供が現場にいたので、作業員が「危ないから子供
は出てる」とか言ってたな

まあその時俺が上を見上げた時には、鉄骨が落ちてきてたけどな
はい、即死です

（よし！避けてやる！……はええよ）

この間わずか1秒！

なんか幽体離脱？してた。
自分の体を見る限りペツチャンコだ。

グツチャグチャだ。

うん、吐き掛けました。

幽霊だから吐かないけどね！

上に上っていったらなんかじじいが居た

「えーっと・・・どうということなの・・・」

なんか裸で踊ってるじじいがある、そのじじいはなんか「わっほお
おいしい！！！」とか叫んでいた
・・・見なかったことにしよう

「スルーしないで！」なんかめっちゃ涙目で話しかけてきた

以下半略

「なるほどそういうことが・・・」 「そういうことそういうこと」

「ふざけるなああああつ！！！」 「グボアッ」

「ええっ？ゲームでBADENDになってぶちぎれて俺を殺したあ
？ふざけるなあああああ！！！」

「gg」

・・・これは完全にフザケテルナ。

「なあ、腕を反対に折っていいか？」

「すいませんでした・・・イタイツヤメテッ」

・・・こいつ本当に神か？

「転生させてあげるので許してください」

ああ・・・、テンプレですねわかります

あれ？これって俺も転生仲間！？

わっほい！

「まあ、転生する世界はランダムじゃ」

・
・
・
・
・
・

「なんか能力くれよ！」

「まあ、それは転生してからのお楽しみ」

つけない馬鹿

第一話 プロロー・・・テンプレ（後書き）

おうどん食べたいです

「おい作者、この駄文はなんだ」

「初投稿作品じゃん！しょうがないじゃん！」

腕は上げていきますよ・・・。

第二話 テンプレスタート 2（前書き）

駄文なので

見たくない方はブラウザバックしてください

2話目です テンプレスタートがまだ終わらない

第二話 テンプレスタート 2

神side

「BADENDじゃと？神を舐めてるのかああ！」
むしゃくしゃするから誰か一人転生させる！

「よしサイコロで……」

コロコロッ

「100058341番加藤神事」

「よし、こいつをまずここにつれてこようかの……」

「えーっと……どういうことなの……」

加藤神事 容姿

どこにでも居るような高校生

17歳 身長170cm前後

平凡

性別 男

神side

「むう・・・平凡そのものじゃの・・・」

「うつせえよ！ゲームBADENDで殺すとかふざけてるだろっ！」

なんか怒られた、ひどい

「BADENDになったからしょうがないじゃろ！」

「ふざけんなあああ！言い訳すんな！」

なんかすごい顔で言い返して来た 怖い
てかなんでわし 怒られてるの？

「とりあえず転生先と種族はサイコロで決めるからの」

「何故にサイコロ」

「気分じゃ」

コロコロッ

「82番 東方 約3億年前 森の中」

「ああこれ、暇だからわしが作った世界じゃ」

「東方ですか……、てかあんた何で東方やってんだよ！神だろ！」

神がゲームやったらだめなのかのう……

コロコロッ

「種族 不明」

……何これ バグった

「えっ？不明？おい神……何故不明なんだ！？」

「バグった」

「バグる事あんのかよ……」

「とりあえずランダムなので転生したら分かると思うのっ」

性別？知らんがな

神事 side

「むう……平凡そのものじゃの……」

「うつせえよ！ゲームBADENDで殺すとかふざけてるだろっ！」

「B A D E N D になったからしょうがないじゃろ！
こいつ言い訳しやがった

「ふざけんなああああ！言い訳すんな！」

こいつ本当に神なのか？B A D E N D で殺すとかありえねえだろ
普通

「とりあえず転生先と種族はサイコロで決めるからの」

「何故にサイコロ」

やっぱこいつ神じゃねえだろ 絶対

コロコロッ

「82番 東方 約3億年前 森の中」

え？3億年前？東方？こいつ東方やってんのかよ

「ああこれ、暇だからわしが作った世界じゃ」

あれ？こいつ創造神だったのか・・・

「東方ですか・・・、てかあんた何で東方やってんだよ！神だろ
！」

なんか神がゲームやったらだめなのかのうとか小声で言っていた気が
するが気のせいだろう

コロコロッ

「種族 不明」

えっ？どういうことだ 種族不明ってなんだ

「えっ？不明？おい神・・・何故不明なんだ！？」

「バグった」

え？サイコロがバグるってどういうことだよ 神のサイコロだから
か？

「バグる事あんのかよ・・・」

「とりあえずランダムなので転生したら分かると思うのう」

性別はどうなってんだ・・・

「性別？ランダムじゃ」

こいつ心の声分かるのか・・・てか全部聞こえてたってことか！

「そうそう」

こいつこええ

「あれ、能力とかは？」

「転生した時に3個能力をランダムでつくと思う」

3個？多すぎじゃね？

「サービスじゃ」

キターーーー！3個能力！あれ？これチートじゃね？

ランダムか・・・運がよければチート能力か

「とりあえず目つぶったら、転生させる 目を開けたら もう別世界だと思っのう」

「目つぶればいいのか じゃあな」

そして俺は目をつぶった

神事 s i d e o u t

第二話 テンプレスタート 2（後書き）

はい

駄文です

失踪はしないと思います

神事「おい作者、まだテンプレ終わらんのか!？」

作者「え?テンプレ?もう終わりですよ」

神事「そうか」

作者「第3話からストーリーが始まりますよー」

第三話 転生完了（前書き）

書くことはありません

第三話 転生完了

洞窟の中・・・

ゆっくりと目を覚ます妖怪が居た

それは、幻想卿ができる約3億年前の世界であった

姿は・・・蠍と鬼を合わせたような姿であった

頭に角があり 硬い甲殻に覆われ 手が4つ 足が2つ ある
なんともいえない姿であった

そうして妖怪は目を覚ますのであった・・・

神事 side

なんか・・・身体が重いなあ・・・
ん？なんか手が4つあるような・・・

幻覚か？目を閉じて開け直したら直るだろう

20分後

あつれえ・・・？これ現実ですか？

手が4つあるのか・・・

便利だからいいけど・・・

よおし とりあえずは・・・俺の能力って何なんだろう？

んー・・・頭に思い浮かべればでてくるのか？

（俺の能力ッ！）

（変換する程度の能力 無機物を操る程度の能力 ???の程度の能力）

????って何だ？

神「????の能力はわしの気分で決める！」

俺が転生してから言っなよ

能力使ってみるか・・・無機物って何だ？・・・ああ、水とか

空気が

とりあえずここらへんの酸素を無くしてみようかな……

10cm範囲の酸素が消えたよ？

結構怖い能力だな これ

でもやっぱまだ範囲小さいな

修行すればいいのかな……

てかまだ人間が出現してない……

どうしよう……

てか原作キャラが出てくるのって 短くても1億年後だよな……

1億年何しようかな……

1万年ぐらい時間が飛びます

そんなこんなで1万年たった

しゃべる相手も居ないので THE・独り言 状態だった

やっとネズミみたいな生物が生まれだした

暇も解消されるかな？

ついでに言うと 1万年の間 自然に妖力とかが増えました

10m範囲の酸素を無くすことが出来る様になりました

やべえ チートだこれ

でも酸素を無くすのって結構疲れるから1分ぐらいが限界なんだよね・・・

暇だ・・・・・・・・・・

神事 s i d e o u t

神 s i d e

暇じゃのう・・・・・・・・

何やろうかのう・・・・・・・・

「ああそうじゃ!」

あの世界の人間が現れる速度を少し早くしたぞー
これは楽しみじ
やの

神 s i d e o u t

天使 s i d e

問題ばつかを起こす上司がやっと仕事を始めた

世界を創造するのも遊び程度にしか思っていない

この上司・・・・仕事は何だと思ってるんだ?

天使

s
i
d
e
o
u
t

第三話 転生完了（後書き）

神事「おい作者」

作者「はいっ なんですか？」

神事「????の能力って何だ？」

作者「教えませんか？」

神事「・・・・・・・・」

神事は何も言わずにそこから去った

作者「????の能力は募集します！
できたらお願いします

なかった場合は作者自ら決めます」

第四話 町（前書き）

駄文なので

見たくない方はブラウザバックしてください

第四話 町

ここは、ある妖怪が住んでいる洞窟

(前回の話の千年後です)

神事 s i d e

・・・やっぱりこの洞窟 何か住み心地がいいな
転生してうまれてきた場所がここだからかな？

そういえば 進化が早まってる気がする・・・

もう猿が生まれてきてるし・・・ たった千年でこんなに進化する
のか？

てか俺・・・時間間隔狂ってきたな・・・

外では「グギヤー」とか「グギユアルグア」とか意味不明な鳴き声
が聞こえるし・・・

ここ最近 縄張り争いとかも増えてきたな・・・
知能が発達してきてるからか？

「外出てみようかな・・・久しぶりに」

そういつて俺は外に出ると、真っ先に広がるのは森であった・・・
・・・はずなんだが・・・

まったく木がない

あったのは木が伐採されたような後と
切り株のみであった

・・・おつかしいな あれ？ 森がないぞ・・・

状況確認の為 俺は山に登って周りを見渡すことにした

・・・む・・・ら？みたいな物が見える

あれはどうみたって町だ なんで町がこんなに早く出来てるんだ？

そういえば最近 妖怪も生まれてるみたいだし・・・

人間の知能が発達してきてるのか？

・・・とりあえず行ってみるか

（”変換する程度の能力”）

重力を斜めに反射して俺は速度を速めた

とりあえずどうやって中に入り込もうかな・・・

見張りとかいるし・・・

ここ最近 霊力とかも何故か増えてきてるし誤魔化そうかな

そっぴゃ 妖力で人間に変身？もできるんだよね・・・
やってみようかな

・・・人間になった

容姿は・・・前世の姿だな
とりあえず妖力抑えてと・・・霊力出すか

まあそんな感じで、見張りに話しかけて入ろうと思う

「あー、旅人なんですが入ってもいいですか？」

「ああ、いいよ 最近妖怪も増えてきてることだし」

簡単に入れた こんな早く入れるとは予想外だった

いっぱい人いるんだな・・・てかこれもあの”神”の仕業か？
進化速度速すぎるぞ・・・

町の感じは・・・

東が商業エリアみたいな感じで西と南は住宅がいっぱいあつまっている住宅地

周りの話によると・・・時間の流れを変える？能力者がいるのか

この発達も納得だな

そういえば薬を作る天才がいるみたいだ 会いに行ってみようかな
にしても・・・その天才とやらがいる近くには見張りがいっぱいだな
どうやってはいるのか・・・

よしっ！ 下水道から入ろう！

（”無機物を操る程度の能力”）

水を半分に割ってと・・・

これで通れるな

・・・にしても 便利だな・・・能力って

疲れるけど・・・

よし・・・後は天才がいる家とやらに 井戸から侵入しようかな

神 side

「びっくりしてるようじゃの・・・これからが楽しみじゃ・・・」

「さーてゲームでもするかの・・・」

・・・ゲームがない

神 side out

第四話 町（後書き）

神事「おい作者」

作者「なんですか？」

神事「失踪する可能性はあるのか？」

作者「多分失踪しない・・・多分」

ついでに、主人公の種族名募集します
できればお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0472y/>

東方隠戦録

2011年11月16日14時23分発行